

8.4 緑

8.4.1 調査事項

調査事項は、表 8.4-1 に示すとおりである。

表8.4-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度 ・緑の量(緑被率や緑化面積など)の変化の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地上部緑化として、約11,000m²の範囲に地上部緑化を行う計画としている。 ・地上部緑化として、落葉広葉樹(エノキ、オオシマザクラ等)、常緑広葉樹(クロガネモチ等)、常緑針葉樹(クロマツ等)の高木を植栽する計画としている。また、防風植栽として常緑広葉樹(タブノキ、クスノキ)、常緑針葉樹(クロマツ)等を植栽する計画としている。 ・既存樹木については伐採予定であるが、樹木調査により樹木の状況確認を行った上で、移植等について検討する。 ・植栽樹種は、計画地北側の「海の森公園」に植栽されている樹種を考慮し、植栽地の環境に適した在来種を植栽する計画としている。 ・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。 ・植栽した樹木は、定期的な灌水、除草、剪定等により適切に管理する。 ・艇庫棟の屋上の一部には、屋上緑化を行う計画としている。

8.4.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

8.4.3 調査手法

調査手法は、表 8.4-2 に示すとおりである。

表8.4-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度 ・緑の量(緑被率や緑化面積など)の変化の程度 	
調査時点	東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
	予測条件の状況	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況及び緑化計画図の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び緑化計画図の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び緑化計画図の整理による方法とした。

8.4.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項及び予測条件の状況

ア. 植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度

事業の実施に伴い、計画地内の落葉広葉樹(ハリエンジュ)、常緑広葉樹(アキグミ)、常緑針葉樹(クロマツ)、混交林(クスノキ)の植栽樹は伐採されたが、図4.2-9(p.20参照)に示すとおり、計画地北側に地上部緑化を行い、高木として落葉広葉樹(エノキ、オオシマザクラ等)、常緑広葉樹(クロガネモチ等)、常緑針葉樹(クロマツ等)を植栽した。また、屋上緑化として、サツキツツジ、マツバギク、シバ等を、計画地南側には、防風植栽として常緑広葉樹(タブノキ、クスノキ)、常緑針葉樹(クロマツ)等を植栽した。また、今後においても緑化整備を行う予定であることから、新たな植栽基盤が形成されるものとする。

したがって、事業の実施前よりも多様な植栽内容となったものとする。

イ. 緑の量(緑被率や緑化面積など)の変化の程度

事業の実施に伴い、計画地内の落葉広葉樹(ハリエンジュ)、常緑広葉樹(アキグミ)、常緑針葉樹(クロマツ)、混交林(クスノキ)等の緑7,500m²の緑地は伐採されたが、図4.2-9(p.20参照)に示すとおり、地上部緑化として、計画地北側の中央防波堤内側埋立地及び計画地南側の中央防波堤外側埋立地において、約11,000m²の範囲に約5,700本の高木・中木や地被類等を植栽したことにより、事業の実施前よりも緑の量は増加した。また、今後においても緑化整備を行う予定であることから、新たな緑が形成されるものとする。

2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.4-3(1) 及び(2) に示すとおりである。なお、緑に関する問合せはなかった。

表8.4-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・地上部緑化として、約11,000m ² の範囲に地上部緑化を行う計画としている。
実施状況	<p>地上部緑化として、オオシマザクラ、サルスベリ、イヌツゲ、シャリンバイ等の高木・中木・低木約 4,500 本、防風植栽等として、タブノキ、クロマツ等の高木・中木約 1,200 本及び地被類等を、約 11,000m² の範囲に植栽した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>地上部緑化の状況 (計画地北側)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地上部緑化の状況 (防風植栽)</p> </div> </div>
ミティゲーション	・地上部緑化として、落葉広葉樹 (エノキ、オオシマザクラ等)、常緑広葉樹 (クロガネモチ等)、常緑針葉樹 (クロマツ等) の高木を植栽する計画としている。また、防風植栽として常緑広葉樹 (タブノキ、クスノキ)、常緑針葉樹 (クロマツ) 等を植栽する計画としている。
実施状況	地上部緑化として、落葉広葉樹 (エノキ、オオシマザクラ等)、常緑広葉樹 (クロガネモチ等)、常緑針葉樹 (クロマツ等)、の高木を植栽した。また、防風植栽として常緑広葉樹 (タブノキ、クスノキ)、常緑針葉樹 (クロマツ) 等を植栽した。
ミティゲーション	・既存樹木については伐採予定であるが、樹木調査により樹木の状況確認を行った上で、移植等について検討する。
実施状況	既存樹木について、樹木調査を実施し、樹木の状況確認を行った上で、伐採を行った。
ミティゲーション	・植栽樹種は、計画地北側の「海の森公園」に植栽されている樹種を考慮し、植栽地の環境に適した在来種を植栽する計画としている。
実施状況	<p>植栽樹種は、計画地北側の「海の森公園」に植栽されている樹種を考慮し、植栽地の環境に適したヤマモモやエノキ等の在来種を採用し、「海の森公園」との連続性に配慮した緑を創出した。</p> <div style="text-align: center;">  <p>地上部緑化の状況 (計画地北側)</p> </div>

表8.4-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。
実施状況	植栽を施す地盤の土壌は、樹種と生育状況に応じた必要な植栽基盤を確保した。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>高・中木の生育基盤の状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>低木の生育基盤の状況</p> </div> </div>
ミティゲーション	・植栽した樹木は、定期的な灌水、除草、剪定等により適切に管理する。
実施状況	植栽した樹木は、定期的な灌水、除草、剪定等により適切に管理されている。
ミティゲーション	・艇庫棟の屋上の一部には、屋上緑化を行う計画としている。
実施状況	艇庫棟の屋上には、サツキツツジ、マツバギク、コウライシバ等が生育する、約 385m ² の緑化を施し、緑の面積を計画どおり確保した。
	 <p>艇庫棟の屋上緑化</p>

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度

事業の実施に伴い、計画地内の落葉広葉樹(ハリエンジュ)、常緑広葉樹(アキグミ)、常緑針葉樹(クロマツ)、混交林(クスノキ)の植栽樹は伐採されたが、計画地北側に地上部緑化を行い、高木として落葉広葉樹(エノキ、オオシマザクラ等)、常緑広葉樹(クロガネモチ等)、常緑針葉樹(クロマツ等)を植栽した。また、屋上緑化として、サツキツツジ、マツバギク、シバ等を、計画地南側には、防風植栽として常緑広葉樹(タブノキ、クスノキ)、常緑針葉樹(クロマツ)等を植栽した。また、今後においても緑化整備を行う予定であることから、新たな植栽基盤が形成されるものとする。

したがって、事業の実施前よりも多様な植栽内容となったものとする。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は概ね一致する。

イ. 緑の量(緑被率や緑化面積など)の変化の程度

事業の実施に伴い、計画地内の落葉広葉樹、常緑広葉樹、常緑針葉樹、混交林等の緑7,500m²の緑地は伐採されたが、地上部緑化として、計画地北側の中央防波堤内側埋立地及び計画地南側の中央防波堤外側埋立地において、約11,000m²の範囲に約5,700本の高木・中木や地被類等を植栽したことにより、事業の実施前よりも緑の量は増加した。また、今後においても緑化整備を行う予定であることから、新たな緑が形成されるものとする。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は概ね一致する。